

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	誤嚥・窒息発生時の対応実技訓練の継続に実施されていない。職員が順に研修を受けていることで、職員がもう一度研修を受ける期間が空いてしまったりしている。	救急対応(消防での心肺蘇生、AED使用方法等)については、研修を受講して学ぶが、実践について、適宜学べるよう環境を整える。	研修はこれまで通り、順に動画や外部研修で受講していく。実践について、西南縁と提携している訪問看護の看護師から対応を学んだり、その実践動画を録り、職員が閲覧できるように整えていく。	2ヶ月
2	12	看取りが終了されたら、振り返りのカンファレンスを実施されていない。	看取りが終了した後も、カンファレンスが実施できるようにする。	看取りが終了した後、カンファレンスを行い、職員から意見を聞き取り、まとめ、改善し、次により良い看取りが行えるよう話し合う。また職員全体が情報を共有できるよう、議事録として残し、職員がいつでも閲覧できるようにしていく。	1ヶ月
3	9	利用者と職員が1対1で会話できる場面が多くみられない。また効果的な情報収集・分析のために記録方法の工夫が足りない。	職員が利用者により信頼できる関係になり、2人きりの空間で、利用者から相談される環境を作っていく。記録は、ケース記録だけでなく、連絡ノートにも、職員が挑戦した情報を書き、他の職員も挑戦できる意識づけに努める。	職員が利用者と1対1で会話できる機会を作ることを意識づけるため、利用者と1対1で関わる時間を増やしていく。連絡ノートにも、自身が挑戦してうまくいったことや利用者の対応で悩んでいることなど書くことで、他の職員からアドバイスを求める環境を作っていく。	12ヶ月
4	10	利用者のニーズが明確な場合は、より具体的なサービス内容の検討・策定(5W1Hの明示)があまりできていない。	利用者のニーズをより明確にし、具体的なサービス内容の検討・策定する際は、分かりやすく5W1Hを使用する。	利用者のニーズをより明確にするため、カンファレンス等の開催を複数回にし、利用者や職員、家族が参加する機会を増やす。カンファレンスを複数回することで、より具体的なサービス内容を検討できる機会を増やす。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。